

## 第2回 丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会

日時：令和4年8月22日(月)  
13:30～

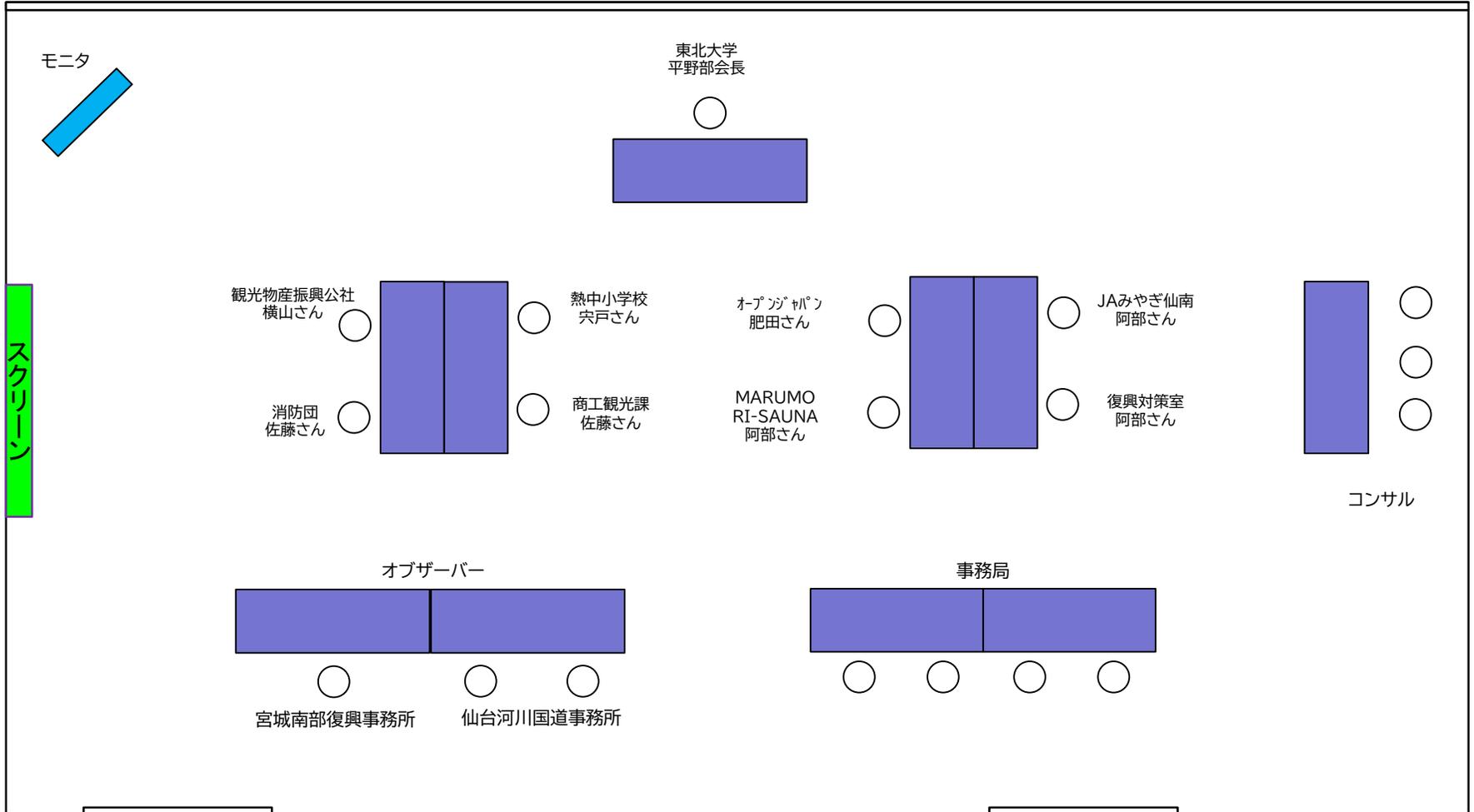
場所：丸森町役場 302会議室

### 次 第

- 1 開 会
- 2 前回のふりかえり（第1回検討部会の意見交換／総務課）
- 3 検討事項
  - (1) 丸森の中心街の観光戦略、観光交流センター・水防センターの役割  
およびフットパス（川風トレイル）
    - 丸森の中心街の観光戦略（商工観光課・報告）
    - （自由討議）
      - ・舟下り発着場の位置
      - ・現観光交流センターの除却および跡地利用
      - ・河川防災ステーションの利活用  
（舟下り、サップ・カヌー、飲食・物販機能 など）
      - ・水防センターの役割
      - ・フットパス（川風トレイル）
  - (2) 対岸の高水敷を含めた新たな展開
    - 前回からこれまでの経緯（総務課／横山理事長・報告）
    - （自由討議）
      - ・対岸の樹木伐採の取り組み方法  
（ワークショップ形式で実践、組織づくり など）
      - ・河川防災ステーションと一体となった対岸の利用方法  
（風景づくり、レクリエーション利用 など）
  - (3) 水辺の楽校の展開
    - これまでの検討（総務課／国交省）
    - （自由討議）
      - ・水辺の楽校
  - (4) その他
    - ・次回（9月）の日程調整
- 4 閉 会

# 丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会 配席図

会場:丸森町役場 3階 302会議室



## 第1回検討部会(2022/7/20)の意見交換(平野部会長の発言を切り口として)

2022/8/22 丸森町

## 1. 人口減少時代、持続可能性のある観光地づくりの要点

## ①リピーターを引きつける魅力は、「食べもの」と「景色」と「人」の3つの資源

- ・人口減少の時代は、リピーターを確保することが持続可能性のある観光地づくりに重要である。リピーターを引きつける魅力は、「食べもの」と「景色」と「人」である。この3つの資源を大事にしながリピーターを確保する。(平野部会長)

## 「食べもの」

- ・丸森は8地区あります。例えば筆甫なんかではへそ大根作り、大内地区だと自然薯祭なんかやっている、耕野では干し柿作り体験・タケノコ掘り体験がある。(船山委員)
- ・今ですね、まだ自社では加工品を生産してないですけども、牛乳の種類でA2ミルクっていう、おながゴロゴロしない牛乳を町内の酪農家をメインに遺伝子を提供しています。簡単な申請で牛乳の販売やアイスクリームのミルクの提供はできます。また熟成肉に最適なブラウンスイスという品種を育てています。レストランを開業された es さんでは将来的にブラウンスイスという品種を使いたい、と言っています。(半澤委員)

## 「景色」

- ・丸森には県立公園が4ヶ所ある。ブナ林です。太平洋側では丸森と金華山ぐらいでしょうし、丸森は最南端です。訪れる人からは、「丸森は素晴らしい、蔵王が見える、〇〇まで見える、牡鹿半島まで見える、吾妻山も見える、ハカタも見える。果ては飯豊連峰まで。」実は、筆甫まで行くと山形と新潟の境まで見える。そういうのを求めて丸森の山に来る。雪があったら蔵王の入道も吾妻の雪うさぎも見えるし、丸森の山の魅力ってそういうものがある。ただユーザーが少ない。(宍戸委員)

## 「人」

- ・私もアウトドアが好きです。今の若い人や私達世代は共通して、やっぱり居心地がいいところに集まる。阿部さんがやられている MARUMORI-SAUNA の取組みは大好きです。発信の仕方がおしゃれですね。(斎藤委員)
- ・サウナはリピーターが多いですね。(事務局・大内)、かなりリピーターは増えていますね。(阿部秀一委員)、サウナだからというわけじゃないよね、阿部さんだからですね。(事務局・大内)

## ②これからの観光PRは、ネット情報が核になるし、効果もある。

- ・多分、これからのPR方策って、SNSとWebになる。ネット情報もしくは友達からの紹介みたいなことの方が、よほどお客さんになるかわからない人に空打ちするマスメディアよりも効果あるって、そういう時代になってきた。(平野部会長)
- ・(ネットで観光地の)データがどんどん広まったら、PR・宣伝費を一切使わない状況で着実に広がって人気が出るようになる時代になっている。(平野部会長)

- ・丸森は本当に面白いところもあるし、面白い活動をしている人がたくさんいるなど私は思います。その情報を得るのは例えば個人のFacebookだったりします。外部の人たちは、ウェブサイトがあれば、丸森の魅力・情報・面白さを知ることが出来るのではないのでしょうか。(斎藤委員)
- ・サウナはブームですけど、気をつけているのは、web見てもらうとわかるんですけど、サウナって単語をあまり使わないようにしていて、どっちかっていうと自然の中でどう過ごすかっていう価値を売ってるところに重きを置いている。webデザインはすごく重要であると思います。(阿部秀一委員)

## ③これからの時代の観光投資と収益の上げ方

- ・今の時代って先が見えないから、小さく投資して単価をあげる(やり方が)基本。(平野部会長)

- ・台風 19 号のときには甚大なちよつと被害があり非常に苦戦を強いられ、その後コロナもありつらい部分もありましたが、本当に丸森の川とか自然とか、そういった部分の魅力をどうやって引き出していくか。そういった部分が、今、いらっしゃっていただいているお客様に、多分届いているだろうと思います。かなり予約数をいただいております。(阿部秀一委員)

## 2. 河川防災ステーションの姿、阿武隈ライン下り拠点の位置

### ①河川防災ステーションは、ネットで情報を取得する時代にハブ機能を持てるか？

- ・河川防災ステーションにハブ機能を持たせることには疑問がある。(インターネットが普及して)現地で情報発信しても遅いし利用しない。むしろ丸森町の情報を提供する、カッコよくデザインされたポータルサイトを作って出かける前にいろいろな場所に行ってみたいと思わせないといけない時代になった。(平野部会長)
- ・河川防災ステーションにお客さんをしっかり集客する。そのためには、集客施設、憩いの場、交流の場として整備を行う。そして大事なのが情報発信です。観光案内所的なものをしっかりと位置づけて、町内回遊に繋がるような情報提供・発信をしていく。そこで、車であり、サイクリングであり、散策であるというような回遊に繋げていくことは大事なんじゃないか。(船山委員)
- ・ある程度丸森町は、宮城県の中でも、情報発信を積極的に行っていたというイメージはあったのですが、やっぱりまだまだ丸森の魅力って数多くあるし、まだまだ発信しきれてないなっていう思いを強く持ちました。若い世代、子育て世代なんかも含めて、そのデザイン力が強い形でのトータルな情報発信。ポータルサイトなんかを活用した発信も必要だと思います。デザイン的にグレードの高い、見やすい、自然をアピールした情報発信というものは必要で、並行して行うことは重要だなというふうなことを実感しました。(船山委員)

### ②阿武隈ライン舟下りの位置は？ 現位置なのか河川防災ステーションなのか？ また、水上レジャー (SUP やカヌー) の可能性は？

- ・この防災ステーションのところにできる建物に (阿武隈ライン) 舟下りは移った方がいいと思いますか？なぜなら、現位置は、観光資源として古い丸森橋があって、川下りの (入口として) いい景色じゃないですか。今の防災ステーションのところは普通の川の景色ですよ。だから、どっちの景色でお金とりますかっていうと、現位置の方がとりやすいでしょうねっていうことを (瀬崎さんは) おっしゃった。(平野部会長)
- ・例えば SUP やカヌーなどの水上レジャーを展開する拠点をどなたかがやりたいというのであれば、すみ分けとしてやっぱり舟下りは上に行った方がいいです。水上レジャーにとっては防災ステーションのロケーションが良くて、同じ場所というわけにいかない。(上流の観光交流センターは) 町の方で早めに壊して、プレハブでもいいからちよつとおしゃれなコンテナハウスでも、自前で建てていただいて、そこで営業再開するとか。そういう戦略があると思います。(平野部会長)
- ・先生一つだけ。どうしてもやっぱ今の観光センターは壊さなきゃいけない。壊すことはやっぱり移るしかないって思ってやるしかないかなあと考えているんですよ。移ろうっていうとき、どうしたらいいかというのを考えていきたい。(横山委員)
- ・極端な話、今の河川防災ステーション整備イメージにある船着場の階段とかは作らないで、例えば、今の丸森大橋下の船着場、巻き込んで砂がたまっているところを使って仮営業してこっちに移るしかない。こっち来ないで向こうにいたら今までと同じで目立たないし、やっぱりこちらでと思っているんです。こっちでやるときにどういう仕組みでやった方がいいかなと考えている。(横山委員)
- ・川の駅にした場合、カヌーや水上バイクの利用をイメージしていました。私は消防団で水防団訓練、ボート訓練をしています。川底がだいぶ浅くて、ゴムボートもスクリューに気をつけながら

走らなければならないのが阿武隈川の現状です。ちょうど今の防災ステーションまでがボートで下れますけど、ちょっと下にはもう下れない状況です。境界は、防災ステーション建設予定の丸森大橋あたりです。通常の水量であれば、船同士すれ違うのも気遣いながら行わなければなりません。(阿部喜知委員)

### ③河川防災ステーションの対岸の高水敷を、以前の綺麗な河原にしたい。

- ・ちょっとすいません今日は商いの話ばかりで、水防の話はあまりなかった。水防の方はまさにそういう形でお金が回らないけど、人は回るみたいな仕組みをちゃんと作っていかないと駄目だと思う。だから、非常に大事だなと思います。(平野部会長)
- ・たしかに汚らしいらしい雑木林みたいになっていて、なんかもっと綺麗な渡利の「水辺の楽校」みたにならないのかなって思いますけど。実はこれ、加減が大変難しいです。(平野部会長)
- ・一つだけ、今日見さしてもらって、一般的な川の風景に見えたっていうお話ありましたけど、本当は館矢間側の砂河原っていうのがありました。昔あんなに雑木林はなくて、本当は、結構きれいな普通の草が生えていた状態でした。もし、あそこの対岸側がうまく整理できれば、防災ステーションからベンチ越しにかベランダ越しに、少しい場所が造れる。それが、しいてはその木がないことで川の流れが良くなるでしょうし。ずっと阿武隈川の下の方は伐採も終わっています。それをこっちまで進めてもらって、四季折々の花を植えるとか、そのお手伝いは私ら大きな機械を持っていますので、簡単にできますので。あそこを綺麗にすると、多分船着場もあそこにしていいということになるんじゃないかなと思って。(半澤委員)
- ・半澤さんが言われた対岸の雑木の話。今、岡山で国交省さんとまちづくりセンターと NPO で、防災の観点から雑木を切らなきゃいけないというので、重機を使って地元の人たちが防災兼ねて河川を整備していきましようという活動が始まっています。言われた通り、そっちが綺麗になると多分いろんな活用できるようになるので、予算面など国交省さんと調整できれば。(肥田委員)
- ・(美観のための) 伐採というのはないですが、流下能力を、流れやすくするっていう意味での伐採は必要がある。(オブザーバー・国交省)
- ・その伐採をワークショップでやったり、チェーンソーで例えばつかみの重機の講習会とかって、防災ステーションができる前に、その周りを環境整備するっていう形でいろんなワークショップしていったり。さらに、ドローンの講習会なども行う。対岸の部分の方から、今あるリソース(女子重機隊なども含め)で、よし、やっていくと。(肥田委員)

### ④河川防災ステーションに水防機能は必須。商業・観光機能をどうするか？

舟下りは現位置という選択もあり、商業・観光集積は「齋理屋敷の近辺」という選択もある。

- ・河川防災ステーションの水防機能は町の行政として大事な機能なので確保する。日常利用(商業・観光機能)については、その事業が丸森町全体を活性化してくれるかどうかを見極めた上で、税金を投入する必要がある。(平野部会長)
- ・役場が建物を作って、民間の人たち使っていていいですよっていうのは、多分これが最後だと思う。その最後の投資を皆さんで上手に利活用できなきゃもったいないですよ。要はイニシャルスケルトンの箱は町が何とか用意してくれて、丸森の隠れたポテンシャルがボンと花咲くチャンスなわけですね。着実にみんなが来てくれるような、しかもちゃんとリピートしてくれるような、そういう格好にしなきゃいけない。そういうアイディアがないのなら、純粹に防災ステーションにしちゃえばいい。次またひどいことが起こったときに、町民の方が車を避難させられるし、水防活動の拠点として使えるいい場所にしとけばいいので、商売用の床とかスペースを用意する必要なんかない。だから、そこが僕は最低限と思っている。今のところ役場は観光施設的なものに投資しても構わないって言っているので、何を植えれば丸森町全体にとってプラスになるっていうふうに議論をしていきたい。(平野部会長)
- ・やっぱり現代的なセンスを持って、デザインを重視して、SNS など現代のやり方をちゃんとわかった上で、ここをプロモーションするか。もしくはここはもう防災一辺倒というのでも一向に構

わない。それよりも齋理屋敷の近辺をいじった方がいいかもしれないし。アスベストで困るかもしれないけど今の観光交流センターをさっさと壊しちゃって、そこのロケーション活かすことを考えた方がいいかもしれない。その戦略とかデザインについて、もぜひ皆さんの意見を聞いてまとめていきたい。(平野部会長)

### 3. 第2回検討部会にむけての宿題

- ・丸森の中心街全体で観光交流センター、水防センター、どういう役割にすればいいか考えてきてください。できれば自分が事業するぐらいのつもりで考えてきてください。観光交流センター建て替えた方がいいという気もするんですけどどうですか。そういう話をちょっと継続していきたい。(平野部会長)

#### 追記1 阿武隈ライン下りの新しい試み(横山委員)

- ・東京・関東方面あっちから来てもらうようになっていくことで、舟下り周遊コースっていうのと、阿武急のあぶくま駅っていうところから、一方通行で下ってくると二つあるんです。
- ・実は9月からですね、ナイトクルーズってやろうと思っている。長野に阿智村っていうのがあるんですけど、15万人ぐらい星空を見に来る場所らしいです。丸森でも星空の魅力を活用したい。

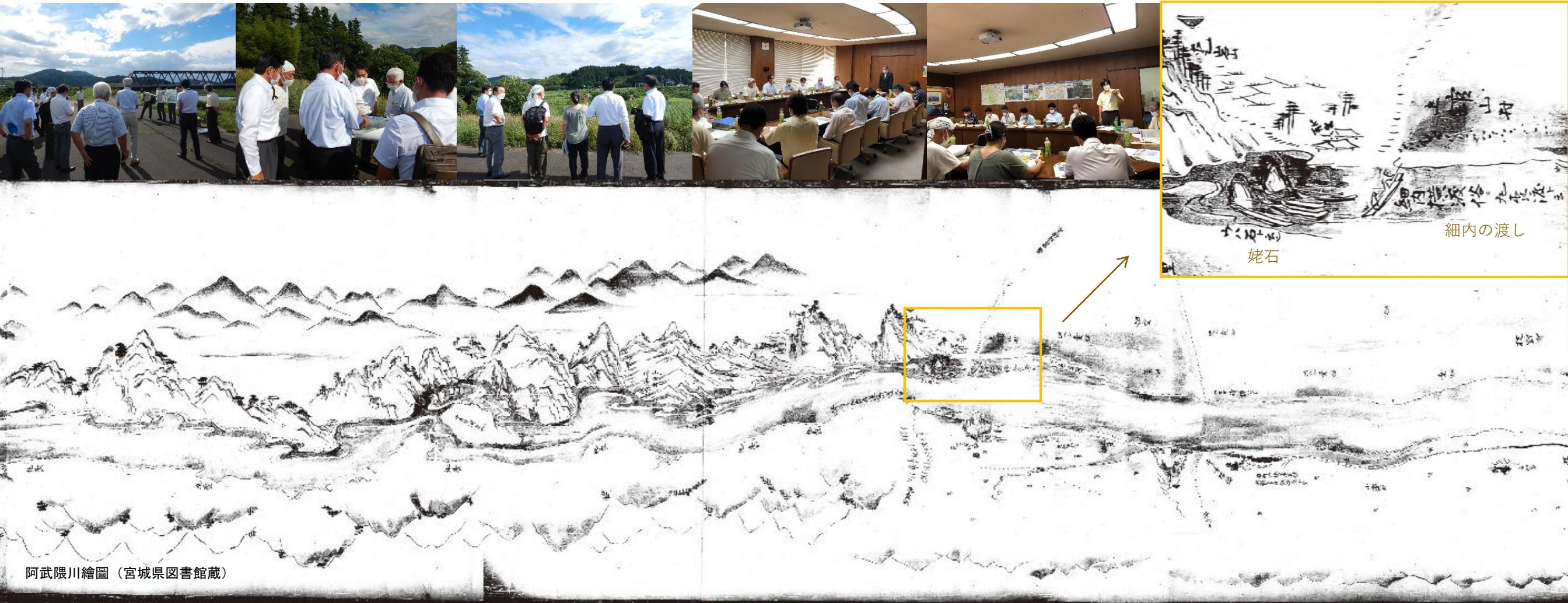
#### 追記2 計画対象地周辺の魅力「川風トレイル」と呼びたい(宍戸克美委員)

- ・実は私は仙台の人と歩いたことあるんですが、あのステーションを中心に周りを歩くと、歴史の名所がいっぱいあるんですよ。ロケーション的にも、今日は見れなかったんですが蔵王が見える。残雪の蔵王が見える。新しい橋とモダン橋と。ずっと河口に流れるところ。
- ・ちょっと話飛びますが、下流に行くと小齋の方から、ある時期になると実はブロッケン現象が見える。これ多分びっくりすると思います。ガスが出て、朝、右岸を歩いていると、向こうにブロッケンが見える。そういうことのあるところの川のおもしろさ。  
〔名〕(ドイツのブロッケン山でよく見られたところからいう)山頂などで太陽を背にして立つと、自分の影が前方の雲や霧に巨大に映り、その周囲に色のついた光の輪が見える現象。大気中の水滴により太陽光線が回折して生じる。御来迎。仏の御光。
- ・ですから、東日本大震災の地域では「潮風トレイル」って言って歩いてますね。ここはミニミニですが「川風トレイル」っていうふうなイメージで、そういうところを巡って歩ける。歴史の形が残ってないんです、丸森の場合は。仙台のようにメジャーなところだったら残ってますけどね。例えば、モダン橋の左岸に竜宮城が昔あったという話だったり、鳥屋館だったり丸山城だったり(これは戦国時代)、その前は大古町だったり。そしてずっと桜堤を歩いていくと、台町古墳にぶつかるんですよ。あそこ178の遺跡があるんです。そういうところを全部繋いで、ないものについては標識なりを作って、全て誰でも巡って歩ける、街の人が案内できる、そういうことをこれからやっていけば、あそこは観光的にもすごいポイントになる。歩いて自転車でも車で来ても、阿武急で来たら歩いて来るわけですよ。あの距離を歩くのはとても楽しい。今度は舟下りもできる。というようなことが可能になっていくんじゃないか。面白いところとして里山がいっぱいあります、あの辺歩いていく感じでもいいし。
- ・川の関係からちょっと追加したいんですが、丸森町はやっぱり川の街でもあるんですよ。舟運だったり。ずっと古墳時代、どうしてあそこに古墳がいっぱいあるのっていうのは、川だと思う。亘理からずっと川をきて、山から人間が下に住んできて、川があるから住んでいる。大古町だってそういうことで、川の関係であそこに集落ができたということが、この防災ステーションの根底にある位置的なものだと思うんですね。その辺も考えながら、防災ステーションっていうのが出来上がっていけば、イメージとして良いものになっていくのかなあ。その辺をどういうふうにどんな形づくるかですよ。そう思います。

# 第2回 丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会 ＜説明資料＞

## 目次

(1) 中心街の観光戦略と河川防災ステーション.....	1
①観光マップ.....	1
②フットパス（川風トレイル）.....	2
③河川防災ステーション周辺の歴史.....	3
④河川防災ステーションの平常時利用（案）.....	4
⑤河川防災ステーションの施設配置計画.....	5
⑥水防センター整備計画（案）.....	6
⑦丸森リバーアクティビティ（SUP&カヌー）の新展開.....	7
(2) 対岸の高水敷を含めた新たな展開.....	9
(3) 水辺の楽校の展開.....	11



令和4年8月22日

丸森町 ・ 国土交通省 東北地方整備局仙台河川国道事務所



# (1)ー② フットパス (川風トレイル)

フットパス 丸森町の川湊・渡し・城跡・橋の歴史を訪ね歩く散歩道。町と川のつながりを学ぶ。

整備施設(案) : 散策路、休憩スペース、眺望広場、フラワーロード(花壇)等



かわみなとフットパス 約3km(徒歩約35分)

A 河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場  
→ B 鳥屋館 → C 船場地区(フラワーロード整備)  
→ D 丸森橋 → E 姥石 → F 丸森大橋 → A

まちなかフットパス 約15km(徒歩約3時間4分)

A 丸森駅 → B 旧丸森郵便局跡地 → C 齋理屋敷 →  
D 八雄館 → E まるもりふるさと館 → F 丸山館跡 →  
G 台町古墳群 → H 桜づつみ公園

※台町古墳群⇔桜づつみ公園 坂路・階段を整備する必要あり

整備アイデア: フラワーロード (B~D)



散策路や舟下りの船からあじさい堤などの眺めを楽しむ



E 姥石 (丸森橋の橋台に利用されている)



F 丸森大橋 (H24年竣工)



A[参考] 船着場護岸 (近傍に神明の渡しがあった)



B 鳥屋館 (伊達家家臣大篠氏の城館、丸森は城下町でもあった)



A[参考] 阿武隈ライン舟下り乗船場



D 丸森橋 (別称: モダン橋、S4年竣工) (近傍に細内の渡しがあった)



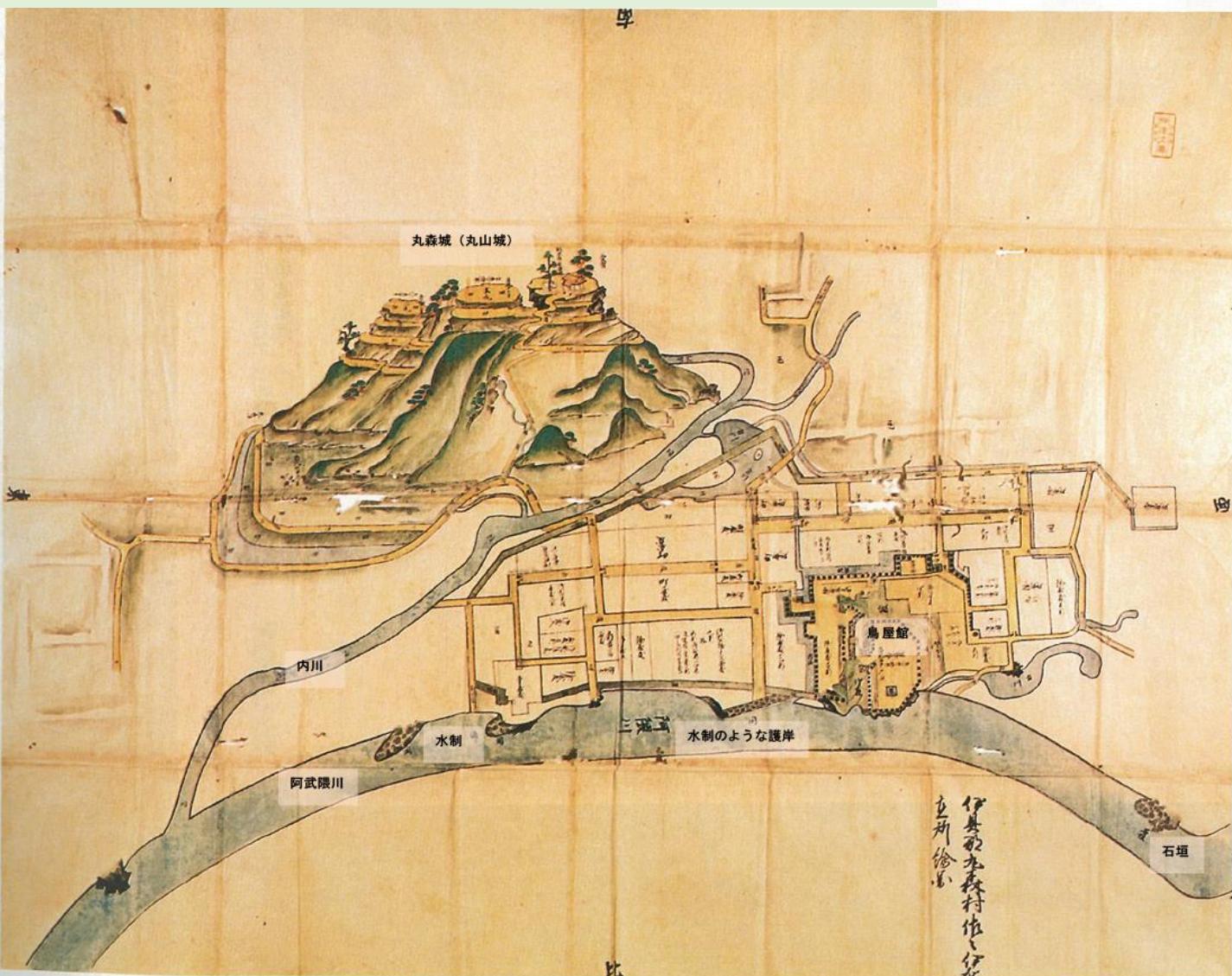
C 船場地区 (丸森舟場・丸森河岸とよばれた港町)

# (1)ー③ 河川防災ステーション周辺の歴史

丸森町内には、「細内の渡し」「神明の渡し」があり、下流に「赤ヶ崎の渡し」があった

➤ 河川防災ステーション計画地の周辺は、古くは「鳥屋館」の城下町の東端であり、「神明の渡し」があった

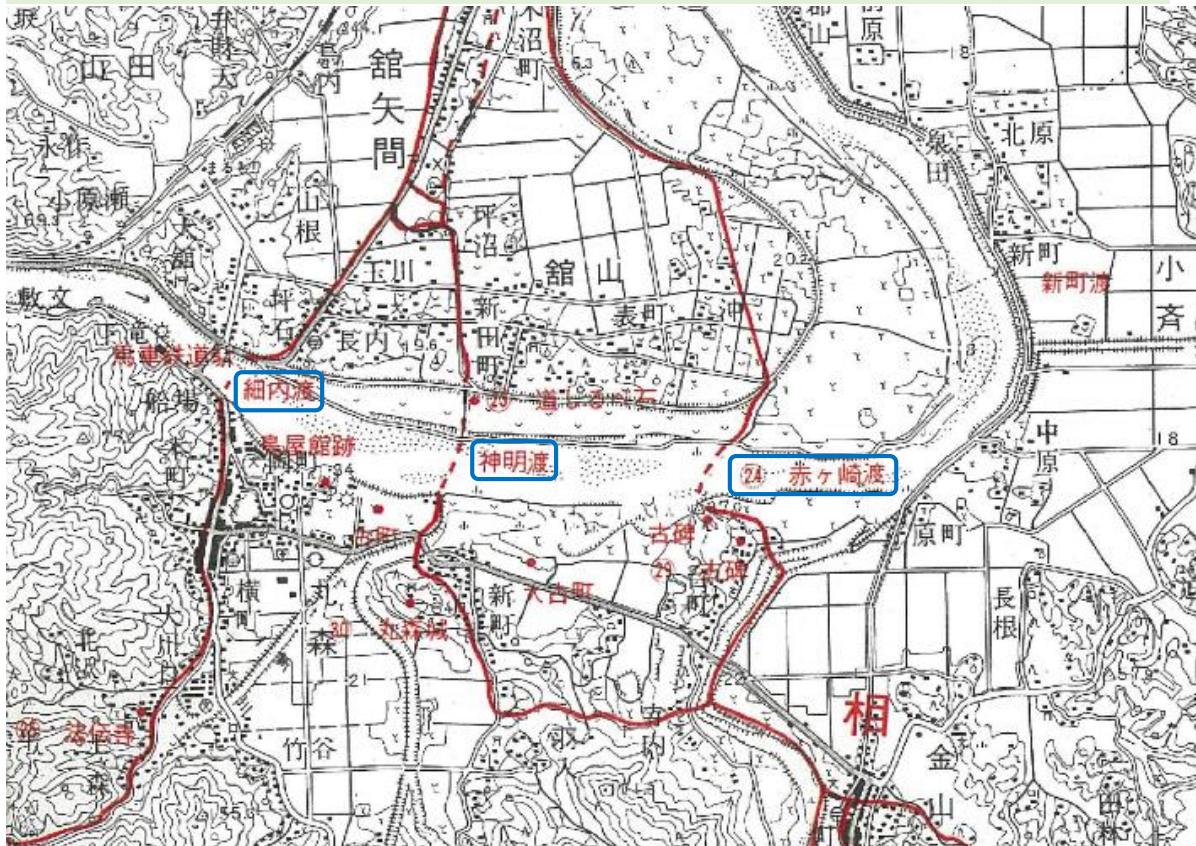
伊具郡丸森村ササ伊賀在所絵図一天和中（1681～1683）に描かれたと考えられる一



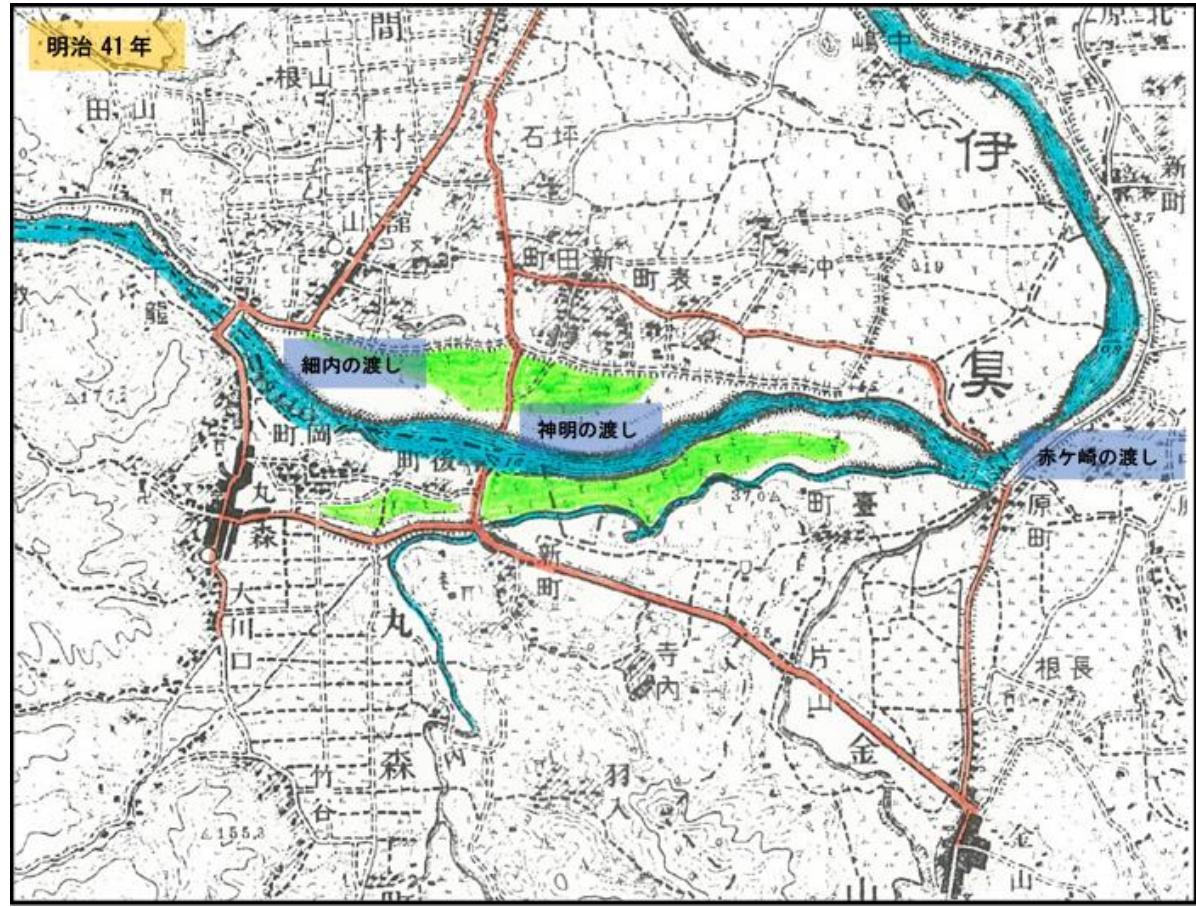
伊具郡丸森村ササ伊賀在所絵図。  
他の絵図には添付してある拝領者自身による覚書、及び藩による吟味書がない。宝暦年間（1751～1763）頃成立と思われる『職鑑』（宮城県図書館蔵）中の「要害所在所拝領仕百姓仕置之事并二右輩屋敷数下中人数書上定」（以下『職鑑』と略記）によれば、所拝領としてつぎの記述がある。「高三百三貫六百五十七文。侍屋敷七十二軒」絵図は一般的な内容の他に「植宗様御廟所」が絵画的に描かれている。天和中（1681～1683）に描かれたと考えられる。（出典 宮城県図書館古典籍類所蔵資料の記述より）

**鳥屋館（とりやだて）**。  
丸森町にあった、伊達家家臣の大條氏の城館。阿武隈川の河岸段丘上に築かれた連郭式の平山城で、丘陵東端に本丸が、その西隣に二の丸があった。1601年（慶長6）、伊達政宗家臣の大條薩摩守実頼が丸森城に入城したが、実頼は同年中に、同城の南に鳥屋館を建設し、丸森城から移住した。移住の理由は定かではない。その後の1682年（天和2）に、大條氏に代わって佐々伊賀守が同館を拝領し、以後、明治維新まで佐々氏代々が居住した。（出典 講談社/日本の城がわかる事典について）

**丸森城（まるもりじょう）**。  
丸森町にあった戦国時代の山城。伊達家当主で陸奥守護の伊達植宗（たねむね）と、その嫡男晴宗（政宗の祖父）の間に起こった争乱（天文の乱・洞（うつろ）の乱、1542～48年）で敗れた植宗が隠居所とした城で、植宗は17年間この城で余生を送った。この城は隠居城として、乱が終息した1548年（天文17）に、植宗により築かれた。現在、本丸跡は愛宕神社となっており、境内には伊達植宗の墓碑がある。丸山城、丸山要害とも呼ばれる。（出典 講談社/日本の城がわかる事典について）



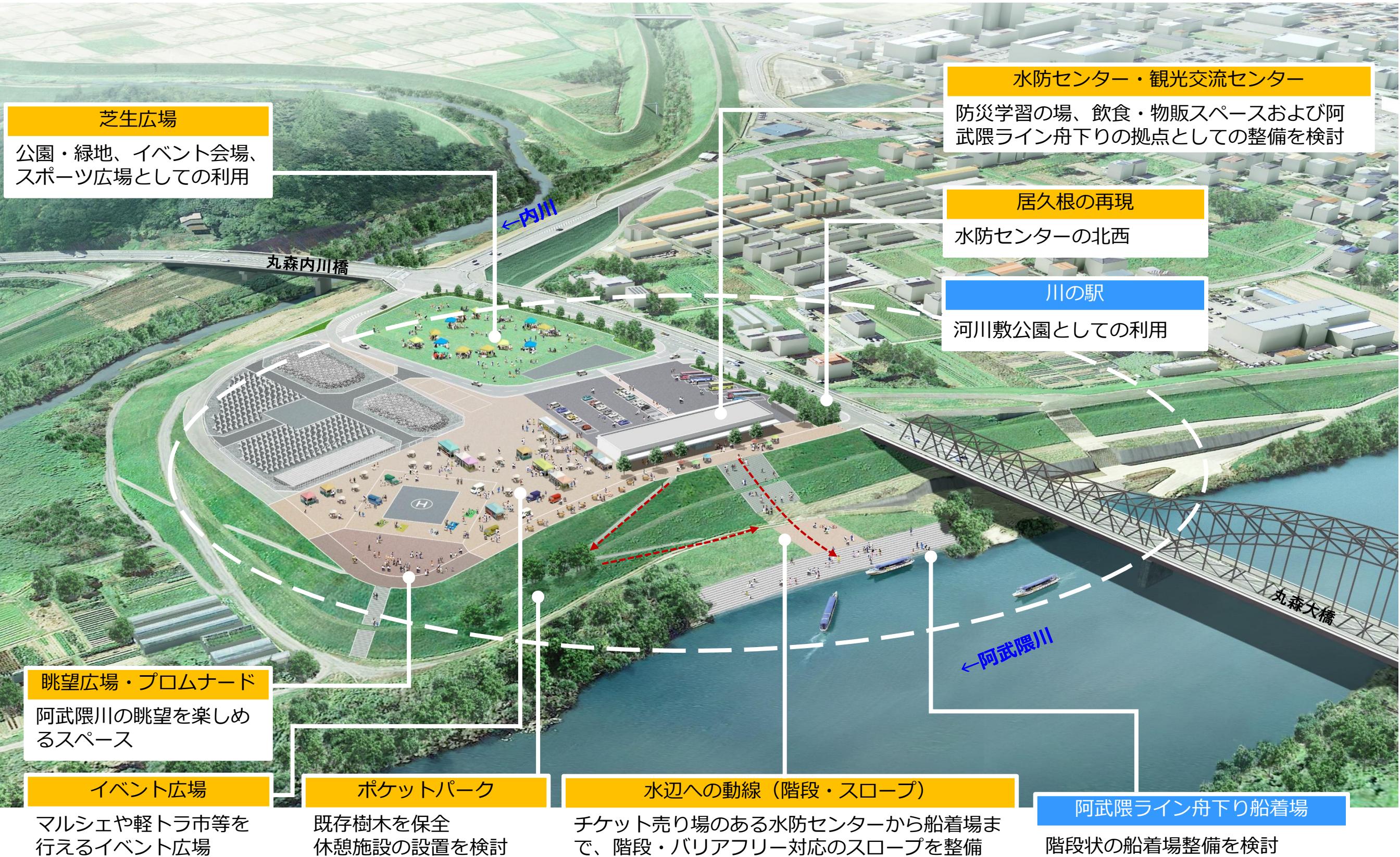
出典：丸森町教育委員会ほか、丸森の歴史の道、昭和56年3月



出典：山口恵一郎編、日本図誌大系「北海道・東北Ⅱ」、昭和55年

# (1)ー④ 河川防災ステーションの平常時利活用(案)

イメージパース



**芝生広場**  
公園・緑地、イベント会場、スポーツ広場としての利用

**水防センター・観光交流センター**  
防災学習の場、飲食・物販スペースおよび阿武隈ライン舟下りの拠点としての整備を検討

**居久根の再現**  
水防センターの北西

**川の駅**  
河川敷公園としての利用

**眺望広場・プロムナード**  
阿武隈川の眺望を楽しむスペース

**イベント広場**  
マルシェや軽トラ市等を行えるイベント広場

**ポケットパーク**  
既存樹木を保全  
休憩施設の設置を検討

**水辺への動線（階段・スロープ）**  
チケット売り場のある水防センターから船着場まで、階段・バリアフリー対応のスロープを整備

**阿武隈ライン舟下り船着場**  
階段状の船着場整備を検討

# (1)ー⑤ 河川防災ステーション施設配置計画

利用状況は平常時



阿武隈ライン  
舟下り乗船場



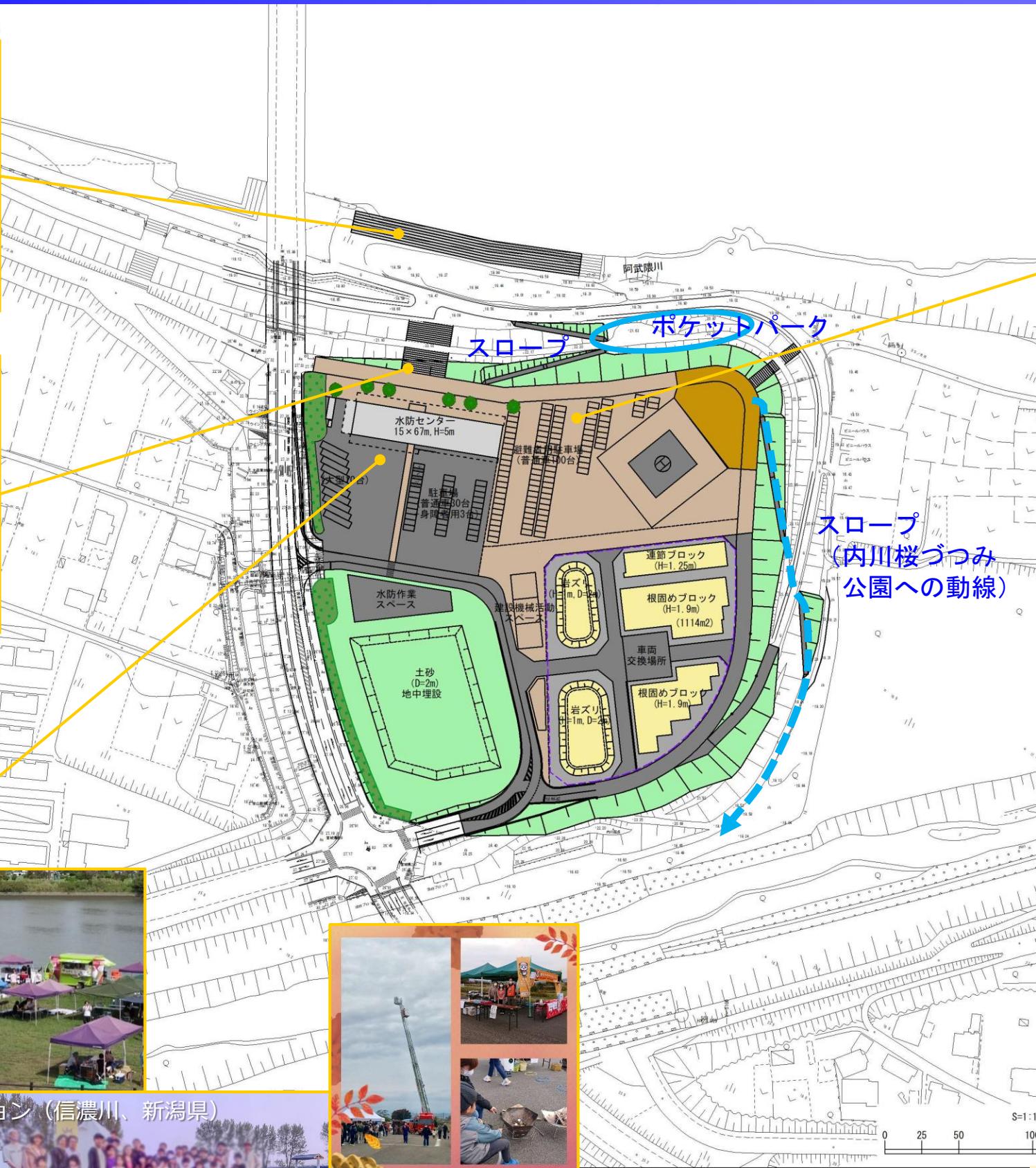
幅広階段に腰掛ける  
かわまちてらす閣上  
(名取川、名取市)



岩淵関緑地 (荒川、東京都)



キャンプ・焚火・防災イベント



キッチンカー、マルシェ・軽トラ市  
丸森地区 (21年11月)



丸森地区 (22年5月)



川沿いのテラス席  
かわまちてらす閣上 (名取川、名取市)



さんじょう  
消防・防災フェスタ  
×  
ミスベリング三条フェス  
ご来場ありがとうございました。

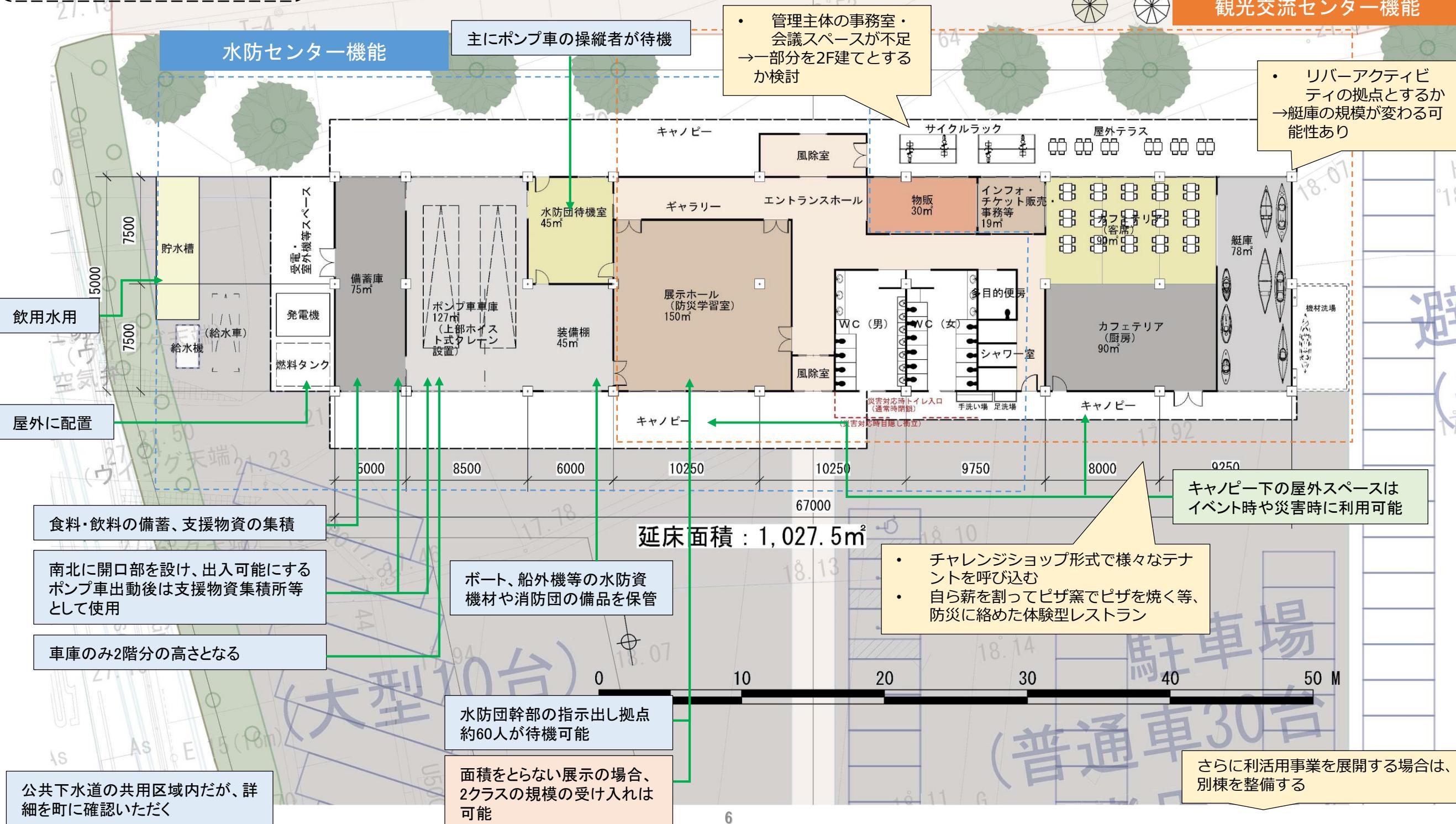
令和4年度 阿武隈川下流丸森地区防災拠点設計業務	
施工箇所	阿武隈川下流 丸森地区
工事名	
図名	平面図
縮尺	1:1000 全業の内
作成年月	令和 年 月
東北地方整備局 仙台河川国道事務所	

・丸森町のゲートウェイ  
・地域の交流・憩いの場  
として平常時利活用する

# (1)ー⑥ 水防センター整備計画(案)

- 水防センター機能に加え、町のゲートウェイとするため観光交流センターとしての機能も導入する。
- 展示ホール（防災学習室）は、教育旅行等の受け入れを想定し、防災の観点から台風19号等の水害を含む町の歴史や土地利用の変遷の紹介のほか、体験型展示も検討する。災害時は、水防団幹部が指示出しをする指令室や緊急救助隊等が待機する受援拠点となる。
- 整備内容の詳細については、想定される事業者と協議し、持続可能な事業としての検討を進めることとする。

これまでに  
出た  
アイデア・意見  
を追記しました



# (1)ー⑦ 丸森リバーアクティビティ (SUP (サップ) &カヌー) の新展開

- 丸森リバーアクティビティは、現在、株式会社プラザール（仙台市のうみの杜水族館でのダイビング体験も実施）と協働して展開している。
- SUP (サップ) とカヌーに絞って、誘客を図っている。



TOP | リバーアクティビティ詳細 | 丸森観光スポット | 仙台うみの杜水族館ダイビング体験 | お問い合わせ

## 丸森リバーアクティビティ

リバーアクティビティ SUP体験&カヌー体験

仙南でSUP&カヌーはいかがですか！？  
オプションで舟下りランチもOK

**阿武隈川**・・・宮城県有数の一級河川  
「丸森リバーアクティビティ」では、未経験から気軽にSUPやカヌー体験をしながら、阿武隈川を楽しめるツアーを開催しています！  
〇〇年愛されている「阿武隈ライン舟下り」を横目に四季折々の景観を楽しめるのが、Good Point！！  
オプションで舟下りランチもご堪能できます。  
【遊んだ後はのんびりと芋煮や猪鍋などを堪能できる、舟下りセットツアーも人気】

予約する



## 丸森リバーアクティビティ

### SUP!SUP!!

初めての方や女性、お子様、ご年配の方でもOK！

【SUP (スタンドアップパドルボード)】は、専用のボードの上に立ったままパドルで水面を漕ぐ、まったく新しいウォータースポーツ。「サーフィン」と「カヤック」を融合させたような感じ！  
SUPには、そのどちらとも違う魅力があります。

川からしか見れないスポットへご案内します！



予約する【空き状況確認】



### カヌー!カヌー!

SUPに自信がない方はカヌーはいかがでしょう？

1人乗用と2人乗用をご用意しておりますので、親子、カップルなどで安心してご参加できます！

SUPよりも安定感があり、落ちる心配も少ないので小さなお子様連れにはとてもオススメです！

予約する【空き状況確認】

## 開催時間

※ご予約が必須となります

最低催行人数 2名様/日

	リバーアクティビティ所要時間	オプション舟下りランチ参加の場合
①	11:00 ~ 12:30	13:00 出航
②	13:00 ~ 14:30	15:00 出航

※天候の状況により変更又は中止となる場合がございます。  
(強風や豪雨、河川の増水を基準に催行できるかどうかを前日に判断いたします。)  
※中止の場合はメール又はTELにて、ご連絡申し上げます。

～ご予約受付日以外でのお申込みご案内～

平日のご予約：5名様以上でご予約承ります。  
いつでも開催いたしますので、お気軽にお問い合わせください。

## 所要時間

ツアー時間 / 約60分間

(書類書き/着替え/準備/説明など別途30分程度)

## 対象年齢

何歳からでもご参加いただけます。

※小学生以下のお客様は大人同伴での参加となります。

## 料金

大人 4,000円 (税込) 子供 2,000円 (税込)

※中学生以上は大人料金となります。

## 持ち物

・濡れても良い服装

(SUP経験などで検査していただきますと幸いです)

・タオル・着替え・帽子 (日差し対策)

・マリンシューズなどの濡れても良い靴

(サンダルもOK! 脱げにくいものをオススメいたします)

※貸出致しますライフジャケットの費用が必須となります。

インターネットから  
予約可能

ご予約空き状況  
～注意事項～  
※受付確認次第にタイムラグがありご入力いただいた日時で予約いただけない場合がございます。ご理解の程お願い申し上げます。  
※ご予約フォームの記入内容にて、必要資料をご準備致しますのでお間違えの無いようご記入のほどお願い申し上げます。

予約の種別: 丸森リバーアクティビティ-SUP&カヌー体験  
日時: 2023/9/20 (土) 11:00~12:30 (2名) / 11:00開

メンバー登録をされた方はログインすると、登録情報が自動入力されます。 ログイン

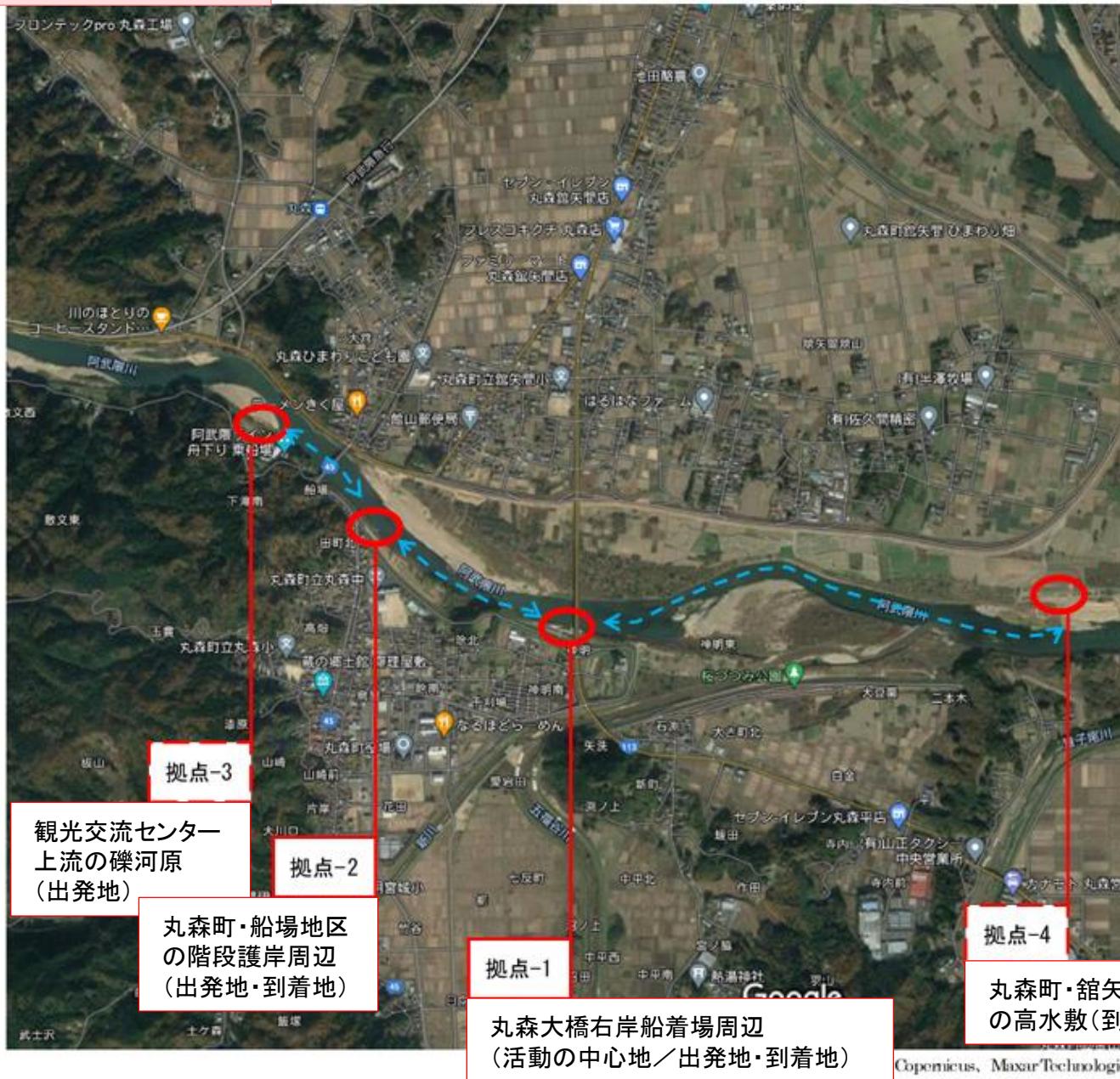
ご予約代表者情報  
\*必須項目  
名前:   
かな(名前):   
性別:  男性  女性  
生年月日: 年 月 日  
郵便番号:   
都道府県:   
住所1:   
住所2:   
携帯電話番号:   
メールアドレス:   
年齢:

丸森リバーアクティビティについて、活動の場の整備や広域的な展開の検討も必要である。

### リバーアクティビティの活動の場の整備

・複数の拠点を整備し、活動の場を多様化する。

### 想定される活動ルート



観光交流センター  
上流の礫河原  
(出発地)

拠点-2

丸森町・船場地区  
の階段護岸周辺  
(出発地・到着地)

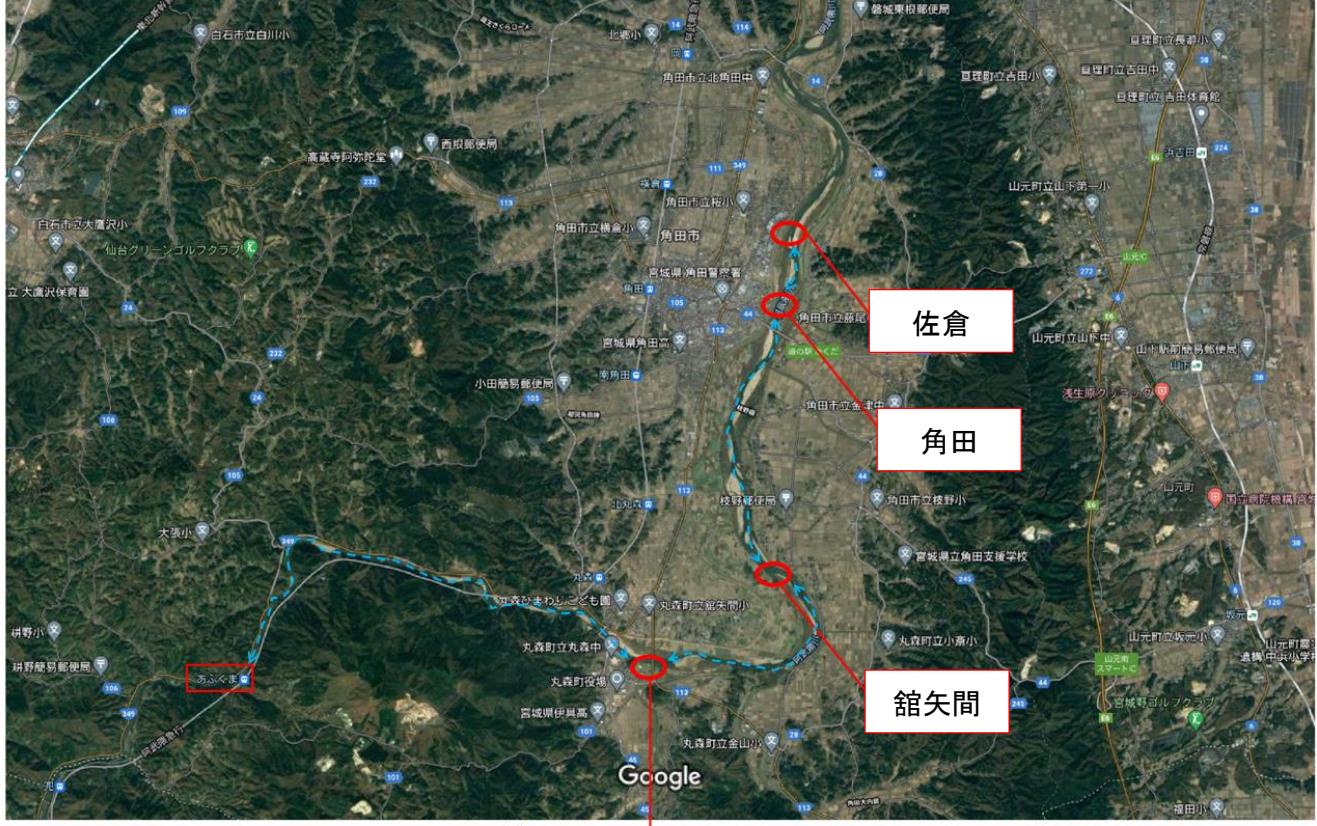
拠点-1

丸森大橋右岸船着場周辺  
(活動の中心地／出発地・到着地)

拠点-4

丸森町・館矢間地区地先  
の高水敷(到着地)

### さらに広域に展開した場合のルート



佐倉

角田

館矢間

拠点-1

リバーアクティビティの広域展開  
カヌーやSUP(サップ)のツアー

- ・丸森町・あぶくま駅の船着場を活用  
(阿武隈急行でカヌーを運ぶ)
- ・下流の船着場を活用  
(館矢間船着場、角田船着場、佐倉船着場)



SUP(千曲川)



カヌー(仁淀川)



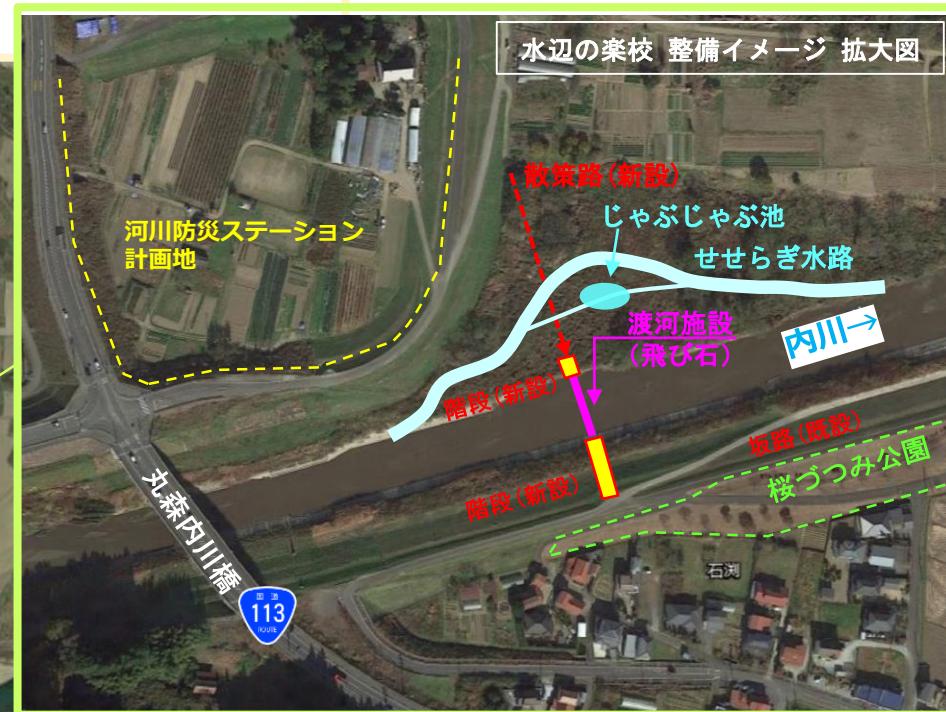
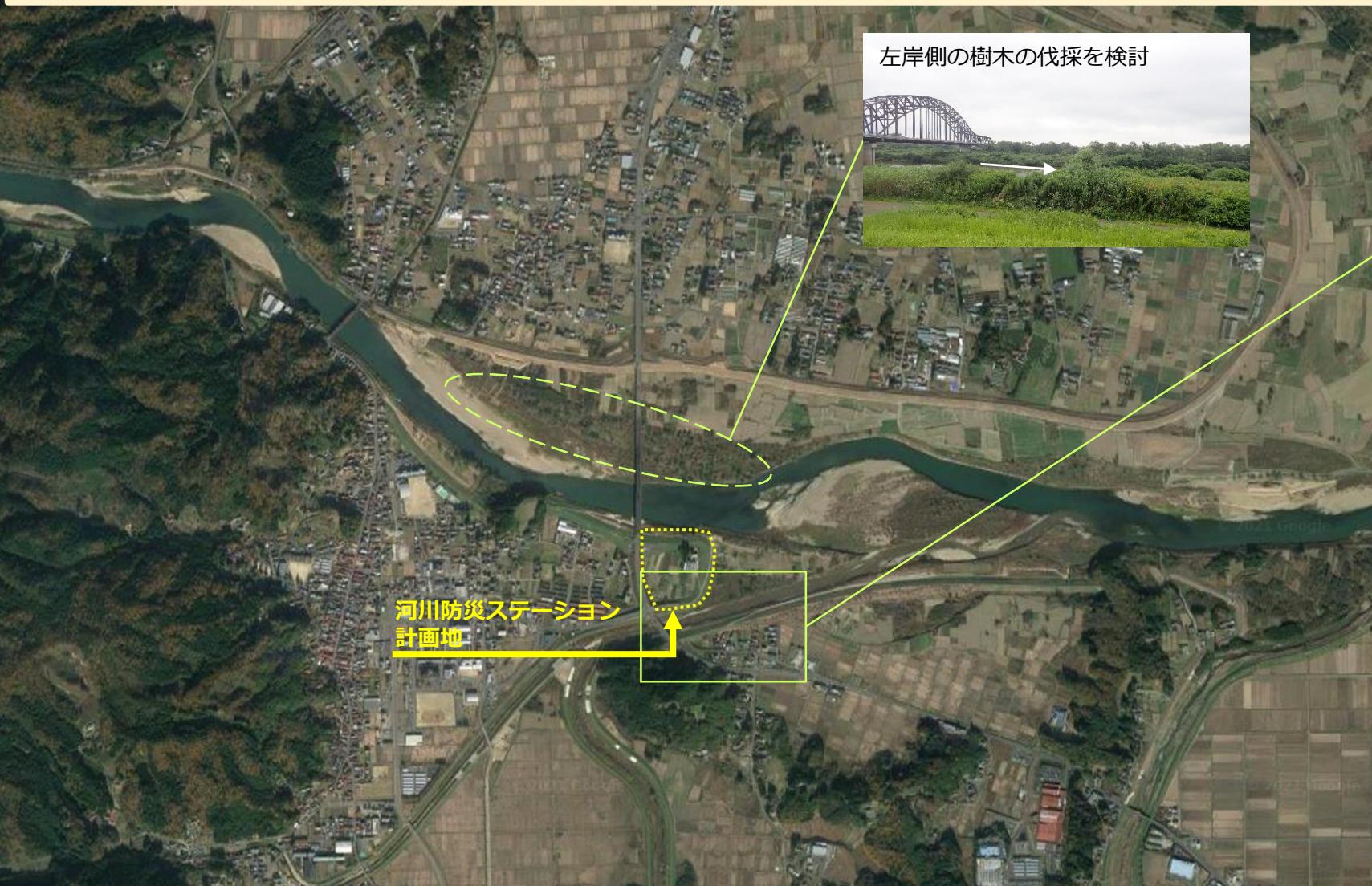


# (3) 水辺の楽校

水辺の楽校 子供たちが水とふれあい、学習できる場、川に親しみを覚える施設を整備

利活用メニュー（案）： 水遊び、環境学習、防災学習

整備施設（案）：  
 せせらぎ水路：内川から水をひき日常的に一定の水が流れる  
 じゃぶじゃぶ池：常にある程度の水位を保つ  
 飛び石：河川防災ステーションと桜つつみ公園を結ぶ



水辺の楽校 整備イメージ 拡大図

水辺の楽校 事例 (阿武隈川、福島市渡利地区)

川リンピック (H18年8月、震災前)



火起こし



スローロープ投げ



整備アイデア：飛び石



整備アイデア：じゃぶじゃぶ池 (環境学習)



稚魚放流会 (H28年2月)



Googleストリートビュー (2022年4月)

# 高水敷の樹木伐採方法とその後の利用形態

- ◆ 高水敷の樹木は、環境面の機能（生態系保全、景観形成）を有する一方、流下能力の低下、偏流や高速流の発生の要因となるなど、治水上問題がある。そのため、河川改修事業、河川維持修繕事業にて適宜伐採している。
- ◆ 管内では、伐採木の無償提供を行っている。そのほか、近年は伐採者を公募して、民間に伐採作業から持ち帰りまでお願いする事例がある。
- ◆ また、高水敷の継続的な利用により、樹木の再繁茂抑制を試みる事例もある。

	伐採	管理	利活用	事例	特徴・留意点
1.従来	河川管理者 (国)	河川管理者 (国)	跡地利用はなし	一般的な方法	再繁茂の可能性有
2.公募伐採	公募 (民間)	河川管理者 (国)	樹木は持ち帰り 跡地利用はなし	千歳川、渡良瀬川等多数	再繁茂の可能性有 (工事用道路は残置)
3.民間による利用	河川管理者 (国)	占用申請者 (市、民間)	例：牧草地、 ゴルフ場等	小田川等	良好な環境が維持 冠水場所での利用方法
4.民間による伐採、利用	公募 (民間)	占用申請者 (市、民間)	例：牧草地 ゴルフ場等	—	良好な環境が維持 冠水場所での利用方法

## 2.公募伐採の例（渡良瀬川、p2参照）

### 渡良瀬川の樹木を伐採・利用して頂ける方を募集しています

- ・対象者：資格審査はありますが、個人、NPO、企業、組合等 どなたでも応募可能です。
- ・利用制限：伐採した樹木は自由に利用できます。（樹木の採取料は無料です。）
- ・伐採場所：桐生市境野町地先の渡良瀬川河川内
- ・応募期間：平成30年9月3日から10月31日
- ・伐採期間：平成30年12月1日から3か月間

#### 伐採場所（渡良瀬川）



**留意事項**  
 渡良瀬川河川事務所のHPより募集要領、留意事項をご確認のうえ、同HPに掲載している応募様式にて申請してください。  
 渡良瀬川河川事務所HP：  
<http://www.ktr.mlit.go.jp/watarase/>

問い合わせ先  
 渡良瀬川河川事務所 管理課  
 TEL 0284-73-5557

## 3.民間による利用の例（小田川、p3, 4参照）

- ・延長約10km、面積約50haが牧草地として利用。
- ・樹木再繁茂抑制のため、地域住民による踏み倒し、牧草生産に加え、ブルドーザによる踏み倒しを実施



#### 住民による踏み倒し（マレットゴルフ）



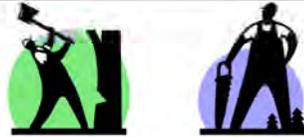
# 公募伐採の例

## 渡良瀬川河川事務所の例

### 渡良瀬川の樹木を伐採・利用して頂ける方を募集しています

- 対象者: 資格審査はありますが、個人、NPO、企業、組合等 どなたでも応募可能です。
- 利用制限: 伐採した樹木は自由に利用できます。(樹木の採取料は無料です。)
- 伐採場所: 桐生市境野町地先の渡良瀬川河川内
- 応募期間: 平成30年9月3日から10月31日
- 伐採期間: 平成30年12月1日から3カ月間

#### 伐採場所(渡良瀬川)



#### 留意事項

渡良瀬川河川事務所のHPより募集要領、留意事項をご確認のうえ、同HPに掲載している応募様式にて申請してください。

渡良瀬川河川事務所HP:  
<http://www.ktr.mlit.go.jp/watarase/>

#### 問い合わせ先

渡良瀬川河川事務所 管理課  
TEL 0284-73-5557



【入口】  
坂路を進入して下さい。  
道幅が狭いので、最徐行で、くれぐれも注意して進入下さい。



【入口】  
車両制限策は外し進入可能です。ただしサイクリング道路と交差しますので、十分に左右安全を確認の上、最徐行で走行願います。



高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所HPより引用

## 公募伐採の例(仙台河川国道事務所、H23.1.11~2.4まで公募)

※このページの木材は利用しませんか?河川(阿武隈川)の洪水防止対策事業の一環として、

#### ■募集は終了しました。(平成23年2月5日)

仙台河川国道事務所では、河川管理の取り組みの一環として、名取川と阿武隈川(宮城県内)に繁茂する雑木について、伐採・持ち帰りにご協力いただける方を一般公募します。

なお、本取り組みは当事務所管内では初の試みです。

河川敷に繁茂している雑木は、洪水時に流れを阻害したり、河川巡視の死角となり、不法投棄の一因にもなることから、河川管理者が伐採を行っていますが、今回、公募により希望者に伐採いただき、その伐採木を無償で持ち帰って利用いただくことで、伐採木の活用とコスト縮減を図るものです。

#### 伐採期間

平成23年 2月上旬 ~ 2月下旬

#### 応募期間

平成23年1月11日(火) ~ 平成23年2月4日(金)

#### 募集概要及び募集要領

#### 公募文(PDF)

#### 申し込み方法

公募文をご確認のうえ、「申込書」に必要な事項をご記入のうえ、担当出張所へ持参、郵送又はFAXにてお申し込み下さい。

申込書を持参する場合は、土曜日、日曜日、祝祭日を除き、角田出張所は8時30分~17時15分まで、名取川出張所は9時15分~18時までとします。

※応募者多数の場合は、抽選により決めさせていただきます。

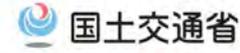
### 公募型樹木伐採箇所 位置図(阿武隈川下流)



仙台河川国道事務所HPより引用

# 小田川の例

## 小田川における工事等進捗状況



- ①小田川合流点付替え事業: 南山の掘削に着手。掘削土砂は堤防の材料として活用。
- ②小田川河道掘削: R2年度までに国管理区間を掘削予定。その後、R2-3年度で宮田堰を改築。掘削土は小田川堤防の拡幅に活用。
- ③樹木再繁茂対策: 地域住民による踏み倒し(マレットゴルフ)、牧草生産に加え、ブルドーザによる踏み倒しを実施。



樹木繁茂対策

掘削の状況



## 中国地方(小田川)発!! 樹木の再繁茂を抑制する河川空間利用の促進

- 小田川の河川敷では、延長約10km、面積約50haが牧草地として利用され、樹木の再繁茂を抑制している。その他にも、市民活動を含め河川敷の更なる利用拡大も図られようとしている。
- 中国地方整備局は、小田川での取り組みを中国地方整備局が管理する全河川において展開し、牧草地や公園などの河川敷の利用を拡大して「防災・減災・国土強靱化のための緊急3か年対策」として実施している樹木伐採後の再繁茂抑制などに役立てていく。
- 地域のニーズを踏まえて河川敷の利用拡大を図っていくために、「大規模氾濫時の減災対策協議会」などを通じて関係市町村と情報交換を行うとともに、ニーズを掘り起こすための公募を実施したところ2件の応募があった。

### ■小田川における牧草地としての河川利用の現状



### ■河川敷利用・占用拡大の取組み

- 「大規模氾濫時の減災対策協議会」などを通じて関係市町村と情報交換
- ニーズを掘り起こすための公募 (公募 10/25~1/24)
- 管内12水系65箇所(約150ha)で募集したところ岡山県内で2件応募あり



「小田川におけるハード・ソフト対策の実施状況、R2.2.12 中国地方整備局」より引用

# 小田川の例

## 記者発表資料



### お知らせ

記者発表日  
令和2年6月17日

■同時発表先：岡山県記者クラブ、倉敷記者クラブ、業界紙（山陽建設通信社、建通新聞社、日刊建設新聞社、建設日報、中建日報社）

## 河川敷の樹木繁茂化抑制に寄与！！ 小田川の牧草地在ります

平成23年11月から小田川河川敷の一部は、国土交通省の占用許可を受けた美星草地組合により、牧草地として利用されています。  
このたび、小田川の河道掘削工事により整地した真備町地区の河川敷が追加占用され、牧草地としての利用が拡大することになりました。  
牧草地など河川敷の恒常的な利用は、樹木の繁茂抑制に寄与するため、今後も河川敷利用についてPRしていきます。

### 河川敷を牧草地として活用されている状況

#### 牧草地としての利用状況(八高橋下流)



牧草地として利用されることで、樹木繁茂が抑制される。



## 市民による維持管理の例

2022/08/09 14:57

### 高梁川流域クリーン一斉行動

高梁川流域クリーン一斉行動（主催：高梁川流域連盟）が11/24（日）に高梁川（倉敷市川辺地区）で開催されました。  
当日は高梁川川辺グラウンド付近で総勢約50名で清掃を行い、TVやペットボトルなどを回収しました。  
流域クリーン一斉行動は平成6年から毎年実施していますが、来年は不法投棄やゴミのポイ捨てが少しでも減り、ゴミの量が減ることを願っています。



高梁川流域クリーン一斉行動 (PDF:583KB)

### 小田川河川敷樹林化防止踏みつけウォーク

### 小田川河川敷樹林化防止踏みつけウォーク

平成31年4月から毎月6日に、「小田川河川敷樹林化防止踏みつけウォーク」（主催：箭田まちづくり推進協議会）を実施しています。  
河川敷の草木を定期的に踏み倒すことで、樹林化を防ぐことや定期的に河川の状態を確認することを目的に行われており、草を踏み倒すだけでなく、迷路を作ったり、マレットゴルフや堤防で草すべりをしたりと、楽しみながら取り組んでいます。



<https://www.cgr.mlit.go.jp/takaoda/renkei/renkei.html#bokusou>

5/8

高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所HPより引用

# 石田沢防災センター

〒981-0213 宮城県宮城郡松島町松島石田沢 12-2

JR「松島海岸駅」より徒歩約 15 分

無料 / 普通車 180 台、障がい者用 3 台、バス等 10 台



広い軒下土足エリア。透明な屋根の下に木材が使われ、ちょうど良い木陰

右：敷材置き場として活用



建物と建物の間にベンチ 2 か所有。足洗い場、ボランティアの準備場所として重宝するスペース

右：平面図



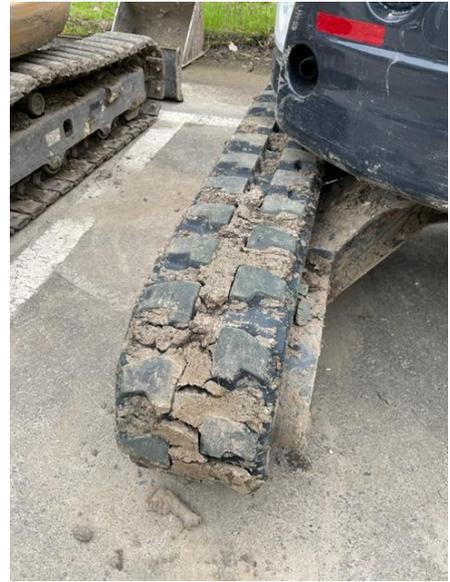
内部 ボランティア待機場所の続く土足エリアにはブルーシートが敷かれていた。ボラセンは基本土足。復旧作業後は泥まみれになることが多いので、泥対策は必須。



半分は休憩室。食事してもいい所。平面図をみると、この一角に炊き出しコーナーがあるので、非常時は配膳室にもなるのかもしれない。通常は3.11の被害状況などのパネル展示と談話コーナー。



防災に関わる読み物。宮城県や近隣の被災地の情報など。



## 重機洗い場、資機材洗い場

現場で作業をした重機、資機材は泥まみれ。作業が終わると、全て水洗いをして、作業が終わる。泥を流す枡としては、ここの枡では小さいとの事。もっと大きいものが必要で、さらに二層式の枡がいいらしい。一層目には泥がたまるので、溜まったら、泥は重機ですくいあげて使用する感じ。ただし、平常時はボウフラがわくので注意とのこと。他の重機洗い場など参考にする必要あり。